

ただかいの現場から

「過労死をなくそう」龍基金「中島賞授賞式」

当事者が立ち上がり、声を上げる運動を

「過労死をなくそう」龍基金は8月1日、第4回中島富雄賞授賞式を東京・葛飾で開催し、過労死を出した企業名の公表を求めて国を提訴した寺西笑子さん（全国過労死を考える家族の会代表）を今年の受賞者として表彰した。

日本弁護士連合会の会長で反貧困ネットワーク代表である宇都宮健児弁護士の記念講演もあり、会場には満員の130人が集まった。

授賞式の冒頭、龍基金の代表である中島晴香さんの夫で、すかいらーくの店長として2004年に過労死で亡くなった中島富雄さんと、副代表の前澤笑美子さんの長男

で、すかいらーくの契約店長として2007年に過労死で亡くなった前澤隆之さんの遺影に向かって参加者全員で黙とうをささげた。

中島賞の選考委員を代表して過労死弁護団事務局長の玉木一成弁護士が今年の受賞者である寺西笑子さんを紹介し、授賞の理由について「過重な労働を続ける方が企業にとって利益が上がるから過労死はなくなる。企業名公表の裁判を支援する意味でも選考した」と説明した。

中島代表から表彰状と賞金を受け取った寺西さんは受賞の言葉を次のように述べた。「夫を過労自殺で亡くして、



記念講演を行う宇都宮健児弁護士。

(撮影 岩崎松男)

労災の認定と会社との裁判で10年半もの長い闘いをしてきました。これからは過労死が起らない活動をやっていきたい。企業名の公表を求め、裁判はそのためにあります。

す。過労死予備軍をなくす仕組みを国をあげて、企業をあげて取り組むよう求めたい。その先頭に遺族の怒りがある。ともに手をつないで過労死防止を実現しましょう」

記念講演した宇都宮弁護士は、中島さんや寺西さんから遺族が先頭となって過労死根絶を訴えている姿に感動したと話した。自身のライフワークでもあるサラ金事件で、多重債務者を苦しめる高金利を規制するための立法運動が成功したのは、被害者自らが立ち上がり声を上げたからだ指摘。「過労死問題も遺族が困難な中でも声を上げることが根絶に向かっていく」と話した。

龍基金は発足して約4年。労災の申請と認定、会社への謝罪や補償の要求など、多くの過労死・過労労災の問題に取り組んできた。成果を上げたこともあるし、失敗したこともある。労働時間の記録を隠す、破棄する、改ざんするといった会社側の抵抗に対して、最愛の人を亡くしてただでさえ悲嘆にくれている遺族ら当事者を最後まで支えられるか。過労死の企業責任を追究する声を上げるよう励ますことができるか。遺族を孤立させない運動が求められている。(全国一般東京東部労組書記長/過労死をなくそう! 龍基金 須田光照)